

大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（第1回）

議事概要

■日 時：平成30年11月27日（火）13:00～15:00

■場 所：上川町保健福祉センター2階ホール

■出席者：資料のとおり（出席者名簿のうち東川町、美瑛町及び道北バスは当日欠席）

■概 要

1. 開会（挨拶：北海道地方環境事務所 大林統括自然保護企画官）

2. 議事

（1）大雪山国立公園ビジョンの策定に向けた関心事項の洗出しの結果について
（事務局）

- ・ 資料1及び参考資料1に沿って説明。

⇒質問、意見等なし。

（2）大雪山国立公園ビジョンについて

（3）大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築について

（事務局）

- ・ 資料2に沿って説明。ビジョンの骨子案の文言は、立場や意見が異なる構成員が共有できる将来像として提示したものであり、みなさまからいただいた個別の意見を内包しているものと理解いただきたい。次回ご提示する素案以降は文章の形となるが、個別の意見を活かして作成したいと考えている。
- ・ 資料3に沿って説明。「大雪山国立公園における新たな協働管理運営体制（案）」について、事前説明時からの主な変更点が2点ある。1点目は、「総合型協議会が登山道維持管理部会を設置して専門的な検討をするよう指示し、その結果を総合型協議会に報告する」という関係を追記した。これに伴い、登山道維持管理部会の代表者を協議会メンバーとする形とした。準備会に先立つ意見照会の中で登山道の荒廃対策に関して数多くの意見があり、これが共通の重要な課題であると考えられたため。ただし、部会の代表者をどのように選出するかは未定。2点目として、研究者については大雪山国立公園研究者ネットワークを協議会メンバーとする案としていたが、個々の研究者を協議会メンバーとする形に修正した。当該ネットワークの活動実態を踏まえ、また、個々の研究者が、それぞれの専門的、科学的見地から総合型協議会で行われる議論に対してアドバイスをする者として参画した方が、議論のより円滑な進行が期待できると考えられるため。
- ・ また、公園管理を担う民間団体を育成していくことも、本協議会で議論すべき大きな課

題であると考えている。

⇒以下、主な質疑応答。

(十勝自然保護協会)

- ・ 「大雪山グレード」と「大雪山ブランド」という用語について説明いただきたい。

(事務局)

- ・ 「大雪山グレード」は、平成 27 年度に北海道地方環境事務所で定めたもので、国立公園内の登山道を 5 段階に分け、グレードごとに登山道の管理の仕方や難易度を示したものの。後日資料を送付する。
- ・ 「大雪山ブランド」は、ビジョン策定に向けた関心事項の洗出しの中で意見として出ている文言であるが、特に決まった定義があるものではなく、大雪山が持つ価値についての認識が関係者で共有化され、発信されている状態という意味で用いられているものと考えている。

(ひがしかわ観光協会)

- ・ 事務局の説明を聞いていても、資料を探すのに精一杯で、内容が頭に入ってこない。何が目的でこの取組をやっているのかもわかりにくいので、大雪山の価値をまずはみんなで共有することから始め、次にそれをどのように活かしていくのかという議論を進めるような進め方をしていただきたい。

(事務局)

- ・ よりわかりやすい資料作りを心がけたい。大雪山の価値については、次回会議で示すビジョン素案の中でわかりやすくまとめて案を提示できるものと思うので、それをもとに議論したい。
- ・ また、次回準備会では事前に会議資料を提示し、ある程度内容を把握していただいた上で会議にご出席いただけるようにしたい。

(旭川電気軌道(株))

- ・ この協議会を立ち上げ、ビジョンを作ることにより、国から予算が付くなどの仕組みがあるのか。

(事務局)

- ・ この協議会を作ることにより予算に直結するということではない。国立公園には近年今までにない様々な課題が出てきている。国立公園には多様な主体が関わっているので、それぞれの立場からお知恵をいただき、国立公園をより良くしていくための場として、本協議会を設けるもの。ビジョンは国立公園をより良くするための共有認識に基づく方針として作成するものである。

(大雪と石狩の自然を守る会)

- ・ 「1. 大雪山国立公園の優れた価値と歩み」の中では、エコパークなど様々な枠組みがある中で、国立公園が果たすべき役割を改めて整理し示すべきと考える。
- ・ 「2. 大雪山国立公園の現状と課題」については、産業開発も過去から大きな影響を及ぼしているのので、これについても整理する必要がある。
- ・ 尾瀬ビジョンでは「生きもの」「利用者」「地域」の3つの視点から記載をしている。このような視点の考え方を活用すれば、産業開発のあり方についてもビジョンに織り込めるのではないかと。特に「地域」の視点は重要。

(上富良野町)

- ・ 「3. 大雪山国立公園の目指す姿」に「大雪山」という言葉が使われているが、「大雪山」は旭岳周辺を指し、十勝岳連峰や東大雪は含まれないというのが一般的な認識ではないか。

(事務局)

- ・ ビジョンの策定を契機に、「大雪山」は大雪山国立公園全域を示すものときちんと整理、発信したい。

(ふらの観光協会)

- ・ 「だいせつざん」なのか「たいせつざん」なのかというレベルの議論があったりもするので、まず認識の統一のための研修会をやっても良いのではと感じた。
- ・ そもそもこの協議会は、大雪山の自然環境を保護していくための場なのか、あるいは今後インバウンドも含め利用を右肩上がりに増やし続けていくための場なのかをはっきりさせた方が良さそう。おそらく両方ということだと思うが。
- ・ それらを推進していく母体がこの協議会であるが、行政の担当者は異動で替わるため、ゆくゆくは民間主導で動かしていけるようになると良いと思う。取組を進めるためには行政の予算だけでは無理があるため、ICTを活用して入山料を徴収するなど資金確保の仕組みも検討するべきである。ICTは遭難対策にも活用可能だろう。

(南富良野まちづくり観光協会)

- ・ 当町に係る国立公園区域は狭いため、国立公園内での取組は行われていないが、町全体として、現在アウトドアツーリズムが盛んになっている。地域に人が定住し、その人がガイド等を行って自然を活かし利用していくことで、自然が守られる仕組みが重要との考えで取組をしている。大雪山でも、専門性の高いガイド育成を行い、ガイド付きのツアー事業を展開し、ガイドが付かないと入ることができない、利用者から徴収したお金を自然環境の保全に充てる、というような仕組みを作っていくべきではないか。
- ・ 今までの発言を聞いていると、大雪山はまだ山の名前さえ統一した認識がない状態であるが、早く世界に発信できる大雪山のブランドを立ち上げ、みんながそれを共有するべきである。

(上川総合振興局)

- 行政はプラン作成に多くの時間とエネルギーを割く傾向があるが、大事なのはプラン作りそのものよりも、実際に何をやるかである。今回のビジョンについても、ビジョンが重要であることはそのとおりだが、ビジョンの策定に時間をかけすぎるよりは、早く具体の課題解決のための議論に入り、時間をかけたい気持ちがある。

(大雪と石狩の自然を守る会)

- 確かにプランを作って実行されないことは多々あるが、現在、国立公園自体が歴史的な転換期に来ていると考えており、今回のビジョン作成は大雪山にとって節目となるので、将来に向けてしっかりしたものを作り上げる必要がある。単に協議会構成員から出た意見をまとめ上げるだけでは足りない部分があると思われ、専門家も含めた作業チームを結成して取り組んではどうか。

(事務局)

- 今回は、日程の都合上、研究者の方々にお越しいただくことができなかったが、次回会議ではお越しいただけるよう調整したい。ご指摘を踏まえ、進め方については工夫していきたい。

(ひがしかわ観光協会)

- このような大人数の会議だと発言の機会が少なくなり、実質的な議論ができないことが懸念される。活用の仕方などは別で部会を作るなど、参集の仕方、進め方は工夫をした方が良い。
- 「大雪山」という言葉に十勝岳連峰は含まれるのかなど、山の名称の認識が構成員間でバラバラであるところだが、「環大雪」の視点で考えていくことが大事だと思う。また、国立公園区域外にも、大雪山の恩恵を受けている者は多くいるはず。

(かみふらの十勝岳観光協会)

- 山の名称の認識がバラバラなのは気になるところ。今回会議で初めて会った方が多く、誰がどの組織の方で、どのような考えを持っているのかわからない。これからこのメンバーで国立公園をより良くするための取組を進めるにあたり、まずはバラバラでも良いので各構成員の国立公園に関するイメージや考えを出し合うべきではないか。

(事務局)

- 大雪山に対するみなさんの思い入れの強さを感じるころ。
- 課題はたくさんあるので、優先順位をつけながら取り組んでいきたいと考えている。大雪山では登山道の維持管理がみなさんの共通の重要課題であるため、まずはこれについて部会を設け取り組んでいきたい。立ち上げ当初はどうしてもバタバタするため、ある程度組織運営が軌道に乗ってきたら、次の課題への取り組み方も考えていく、という進め方をしたい。
- 1回目の準備会であるため、まだご発言のない団体においても、ぜひ積極にご意見いただきたい。

(北海道運輸局観光部)

- 当方としてはアドベンチャートラベルの事業を展開しているところであるが、ガイドの不足が課題となっており、現在ガイド育成の取組も進めているところ。本協議会とはそのような観点からうまくマッチングして関わっていければと考えている。
- 個人的には登山道協働管理の課題に対して高い関心を持っている。自然環境は一度壊れてしまうと復元が難しく、利用ができなくなれば観光業にも影響するので、まず登山道荒廃の課題に取り組む方向性に対して共感している。
- 一方で、自然が地域にもたらす価値とは何かという点が、観光や地域住民にとって重要な観点だと思うので、そのあたりも次のステップとして議論していただければありがたい。

(北海道開発局)

- 当方では外国人の観光利用の動向をアプリを活用して分析している。ドライブによる観光については、道内では道央圏の利用が最も多いが、それ以外の地域では黒岳ロープウェイの利用が非常に多い。背景はまだ不明だが、そうした分析の結果を本協議会で提示できればと思っている。

(上川中部森林管理署)

- 官と民が一体となって大雪山のために取り組む体制ができることに期待している。
- 国有林行政としては、産業振興をしていくことと、土地所有者として自然環境を守ることの両立を図る必要がある中で、正直悩む部分もある。本協議会をお互いの意見をやり取りする場としてうまく活用させていただきたい。

(南富良野町)

- 当町は国立公園内に利用施設がないため、これまであまり国立公園を活用してこなかったが、今回の管理運営体制の転換を機に、町としても何らかの形で利活用をしていければと思う。

(上川町)

- 上川町内には多くの登山口があるが、近年、気象災害により登山口までのアクセス道が通行止めになることが多く、利用に影響が出ている。
- また、銀泉台及び大雪高原温泉に至る町道ではマイカー規制を行っており、利用者から協力金を得ているが、多くの利用者から協力金が登山道整備に使われることを期待する意見があった。そのため、協力金の一部を上川地区登山道等維持管理連絡協議会の登山道整備会計に繰り入れ、登山道整備や整備を行う団体への支援に使ってもらうことを、マイカー規制協議会の中で提案したいと考えている。

- ・他にも町としての取組は多くあるが、新たな管理運営体制の設立により、国立公園の利活用がより推進されることを期待している。

(十勝自然保護協会)

- ・ビジョンではぜひ「1. 大雪山国立公園の優れた価値と歩み」をしっかりと作り込んでいただきたい。特に生物多様性や生態系の保全を柱としてしっかりと入れてほしい。土台となる自然環境がしっかりと保全されなければ、集客という話が前面に出てくるだけで貴重な遺産を次世代へつなぐことができなくなってしまう。

(大雪と石狩の自然を守る会)

- ・資料3に記載されている民間団体とは具体的にどのようなイメージか。

(事務局)

- ・現時点では、具体的な見通しはない。資料に記載しているようなことを担ってくれる民間団体が今後立ち上がるか、育ってくると良いと考えている。

(事務局)

- ・ビジョンについても今回言い足りなかったことがあれば、後ほど事務局に連絡いただきたい。
- ・今回の欠席者についても別途意見は聴取する予定であり、それを踏まえてビジョンの素案を作っていく。第2回準備会の前には、みなさんに素案を提示できるようにする。

(4) 大雪山国立公園フォーラムの開催について

(事務局)

- ・資料4に沿って説明。

⇒以下、主な質疑応答。

(ひがしかわ観光協会)

- ・パネルディスカッションとあるが、このフォーラムは何らかの結論を導き出すものなのか。

(事務局)

- ・他地域の事例も踏まえて知恵を出し合うための場であり、何らかの結論を導く場ではないが、フォーラムで出た知恵や意見は、素案づくりはじめ、今後の議論に活かしていきたい。

3. 閉会